

昭和三十九年五月二日 講話

「いかに職業を選ぶべきか」

塾理事長 前川喜作

今夕は恒例により、就職の問題について私の考えを聴きたいとの諸君の申し出がありましてので、何か参考になることを申し上げたり、質問に答えたいと思います。

これから実社会に活動する最初の就職の問題となりますと、これは人間——しかも立派な男子として此の世に生れ出たことと、将来才色兼備の麗人と結婚して家庭を営むことと併せて三つの大きな問題、いな運命でもあるかと考えます。

私は就職とか、一つの計画を樹てるとかという時には、よく文天祥の『辛苦に遭逢するは一経より起る、干戈落々四周星、山河破碎して風絮を漂わし、身世飄揺して雨萍を打つ、皇恐灘(たん)頭に皇恐を説き、零丁洋裏に零丁を歎く、人生古えより誰か死なからん、丹心を留取して汗青を照さん』という、「零丁洋を過ぐるの詩」を思い出すのであります。私如き凡庸のものにおきましては、別に責任を回避するわけではありませんが、こんな運命を決する様な大

問題は空恐ろしくて御答も出来ないものであります。恐らく神様のみが知って居られることとさえ思うのであります。さらばと云つて、天に口なしとか申しますから、結局は各人自ら十分考えられて決定さるべきことなのですが、今日は只ほんにご参考までに私の考えをお話して見たいと思えますから、そのつもりで聴いていただきたいと思います。

私は初めて就職——職業職場を決定する場合の大前提となるものは、何よりも自分の人生観と申しますか世界観と申しますか、或は哲学と申しますか——早く云えば「人生如何に生きべきか」と云う問題を第一に考えるべきだと思えます。この問題が決まりませんと、ただ漫然と目先を見ての業種や会社の選択などと云うことはまことに空疎なこととなつてしまします。否むしろ取り返しのかかぬ過誤を犯すことにさへなるかと思えます。読者が今日迄十数年間勉強と修養を重ねられたのも、皆この命題——「人生如何に生きべきか」の問題の解決のためであり、また終生を通じて考え続けねばならぬ命がけの問題かと存じます。

即ち「如何に生きることが自分に最も幸福であり最も有意義の生き方であるか」と云う問題を先ず決定されることが先決問題だと思いません。真実を求め美を求め善を求めたい純真な人が、一時の感興に支配されて、ただお金や地位や名譽を求めて、世俗的な所謂成功を求めて虚偽と不正と隠謀を手段とする職業に就かれたとするならば、これはご当人は終生を通じて精神的にも物質的にも矛盾と苦痛といばらの道に泣かされることになると思えます。

第二にはその求める生き方に自分の性格能力が適しているかどうか、その念願成就の可能性はあるかないか、或はどの程度あるか、又あつてもなくても希望の達成は問う所ではない、如何なる苦難の途を辿らうとも、只々ひたむきに此の道に精進することこそ自分の生き甲斐を感ずるのだ、それで満足だと決心されれば、私はそれはそれなりに、ご当人は人生の第一義

的な幸福と生き甲斐をつかまれたことになる
 と思うのでありますが、然しその代わりにそう
 して熟慮決心された以上は、これを天職と心得
 て、その成敗は運命に任せる覚悟で終生努力を
 続けて悔ない気持で、容易に此の決定を変えな
 いことである。そうすれば百里は行かずとも九
 十里、九十里は行かずとも八十里、七十里に行
 けるのではないか。然かも方向は正しいのであ
 れば、私はそれで結構と思うのであります。

一応この前提に立つての現時点に於ける就
 職、職場の選定について心得ていただきたいこ
 とを二、三申し上げたいと思います。

一、私は先ず第一に着目したいことは、時間
 的には少くとも三十年先、出来れば五十年先を
 考えることと、今一つは、空間的にも世界的規
 模と視野に於てものごとを考えること云うこと
 であります。即ち三十年五十年先、自分の人生
 の終着の時点に於て、この地球上の人類の学
 問・政治・経済等文化の様相がどうなるであろ
 うか、又なつていであろうか、そしてそれに
 対して自分の目的達成に最もエフィシエント
 な道——職業、会社を含めた就職——が決定さ
 るべきでないかと考えますが、如何でしょうか。
 これもまた大変難しい問題でありまして、現在
 並びに将来の文化の発展変革のテンポは私共
 が過ごして来ました明治・大正の時代とは想像
 を超えた早さであり、それも年々加速度を加え

て来て居るようにも思われるのであります。昔
 の十年二十年の変革は今の一年二年にも当ら
 ないものがあります。広さにおきましても、日
 本だけの世界だったのが地球に又宇宙に広が
 っているのでありますから、時間的にも空間的
 にもこの決定は又大変難しいことと思うので
 ありますが、さらばとて此れを閑却し去ること
 は、お互様どうしても出来ない運命に置かれて
 居るのであります。この点どうぞシツカリと腹
 をすえて、よく考えていただきたいのでありま
 す。勿論五十年先にはキット世界が一つになつ

て、世界国家が生れて居るでありましょう。人
 種の偏見は残るとしても、オーストラリアもア
 フリカも南極も世界人に開放されることであ
 りましょう。月の世界は闡明(せんめい)され
 ているでありましょう。人間の生命も、平均寿
 命は百年以上になるようになるのでありまし
 ょう。空中に移動住宅も建設されるのでありまし
 ょう。食事も米やパンを必要としないのでありまし
 ょう。衣類も寒暑に対する考慮をネグレクトし
 た、ただ装飾的のものになるのではないでしょ
 うか。無重力の地帯も出来るかも知れません。
 趣味も嗜好も、物の価値判断も大変な変革を来
 たすでありましょう。熱源も核熱源から進んで、
 太陽や地球の内部からとる様にもなるでしょ
 う。従つて職業の選定に当つては、こんなこと
 も考えに入れておかるべきであると思ひます。

こんなことを考えますと、今諸君が何会社が
 よいとか、何会社の資本は、経理内容は、世間
 の人気は、社長の人柄は、経営方針は、将来は、
 などと考へて居られることも、根本からジツク
 リ考へ直していただく必要も或はあるのでは
 ないかと思つております。煙に巻くのではあ
 りません。ホントウにお互いが現在直面して居
 る厳肅な事実であり、免れることの出来ない運
 命でもあるのであります。次に、然らば先に申
 しました方針決定の大前提たる諸君の人生観
 と、五十年先の世界の未来図を決められた後に
 決定さるべき極めて現実の——ここ数ヶ月以
 内に決定されなければならぬ就職を対象にし
 た手近な、現実的な点を考へて見ましようか。

第一に、日本は土地はせまい——現在の国際
 的通念は地上の空間さえも、又その土地の下の
 地球の中心に到る資源まで、その地表の面積が
 所属せる国家民族の専有物であります。今にそ
 の地表上の空気、水、蒸気さえもその所属に帰
 するようになるかも知れませんね。第二に、従
 つて資源は極めて貧弱である——天然資源と
 しては公海を利用する水産業と空気を資源と
 する化学産業、石灰を資源とする窯業位のもの
 でしょうか。吾々の日常欠くことの出来ない石
 油にしろからが、殆んど全部を海外に求めて居
 る、鉄鉱石、粘結炭、ボーキサイト、綿花、ウ
 ラン、その他数限りない重要資材は殆んど海外

なお最後に諸君からの質問にお答え致します。将来お父さんの事業を継承されるのに、卒業と同時に家業に就かれるか、又は二三年他社に勤務して勉強してから家業につかれるか、何れがよいかとのご質問ですが、私は矢張り直ぐ家業につかれるのがよいと思います。それは(一)他社に就職されても、君の修業と研究を目的とされるのでしたら、他社への勤務は日々の勤務そのものが一から十迄、君の修業と研究になるものではない、そのホンノ一部又は三分の一位しか勉強にならないと思います。それはスケール、方針、業種、その他必ず合致しないからであります。(二)直ぐに自社に入社されて、その代り初めから一社員・一見習生として、他社に入られたと全く同じ気持でコツコツと勉強され、この間十分同業他社にも研究に行かれることです。これが是非必要であります。俺は社長の長男だ、東京で大学を卒えて来たのだ、近く社長になるのだ、と云った様なエリートは塵の垢ほどもあつてはいけません。又社員からもそんな感じをもたせてはいけません。一見習生―社員―係長―課長―役員のコースを確実に進まれることこそ、必須の条件であります。そうでないと、将来自分も苦しいことにもなり、社員のモラル(士気)にも大変悪影響を及ぼすと思います。事業経営には学閥閥閥は絶対禁物です。特に中小企業に於ては、公私を混淆す

ることは厳禁であります。

大企業がよいか小企業がよいか、これはよく論ぜられることでありますが、至つて簡単な問題であり、各々特質はあると思います。大企業は安定性があり、小企業はこれが乏しい。大企業はメカニズムの二コマとして協調と他動性と申しますか、個人の能力、効果、失敗が直ぐにあらわれないで、総合的全体的にあらわれ、運命的のものがありますが、小企業は独創的・自動的と申しますか、自分の創意、努力、失敗の結果が比較的早く形にあらわれて参りますから、それだけ心身の苦勞は一方でないでしょう。そしてその効果は努力よりも少なくて失敗はむしろマイナスが大きい事が多い。従つて危険でもあります。又積極的の人にはよいかも知れませんが、私などは卒業後川崎造船に入ったのですが、我儘者で上役の勧告もきかずに無理に飛び出して、いやと云う程苦勞をして、案外その効果もなく一生を誤つた様な氣も致しますが、只し日日好む所に向つて苦勞する内にも希望に燃えて働いた事は幸福であつたかも知れんと、此れも運命と今は諦めて居ます。私は大企業を選ばれる人はその業界の日本一、又は二下つて三位の会社を選ばべきでないかと思ひます。尤も将来性を考慮に入れてですよ。現在第一位でなくても将来第一位たる会社ですよ。

尤も大企業小企業などと申しますが、日本の企業は何と云つたつて世界的スケールで見れば、日本の大企業と云つたつて、世界的には小企業でないでしょうか。世界的に見れば、下請企業でもあるかも知れませんね。

私はそれよりも大企業小企業と選別するよりも、企業の将来性、会社の社風、社格(こんな言葉があるかないか知りませんが、人に人格があるように、会社の性格品格です)社長の人格、能力、と云うことが大切ではないでしょうか。低劣な利己的な人の経営する会社は、社会的にも見下げられますね。そしてキットそんな会社は一時は榮えても、寿命が短かい様ですね。そんな会社へ入るとたとえ給料は高くても、諸君の日常の社交、又特に近く迎へんとする結婚にも影響しませんか知らん。

将来性と関連しますが、私は午前八時の会社を選んでいただきたいですね。「ボーイズ・ビル・アンビシャス」と云うことは、私は「青年よ、午前八時であれ」と私なりに解釈して居ります。午後一時か二時の会社では楽しみも希望も失います。二十年前のテン・ビッグ(十大企業)は今のテン・ビッグでしょうか。現在のテン・ビッグが、十年、二十年先にテン・ビッグであり得るだろうか。この点を考えに入れていただきたいのです。希望と夢のない程ミゼラブルなことはないと思います。私のようなルート

ルがそうですから、諸君、青年諸君は尚更と思
います。

私は一番嫌いな言葉の一つに「コネ」と云う
言葉があります。最早真面目な企業の人事に聞
くは勿論、学閥とか社長、役員の個人的要素を
混入する所はないと思います。もしあるとすれ
ば、それは間違つた経営であります。現在はよ
くとも将来性はありません。企業は人でありま
す。日本郵船会社は戦前から最も大きな財産を
もつた会社の一つであります。それにも増し
て郵船の資本は、人材を集めて居ると云うこと
だそうです。コネがないと入れないなどと云う
会社は、私はあまりお奨め出来ません。よく代
議士諸君の紹介や名刺をもつて行かれる方が
ある様ですが、実業界では特に通用致しません
と思います。前時代的の遺物でしょうね。紹介
依頼は学校の先生か、御両親、御兄弟位の依頼
位でしょうか。

入社試験の時は学力テストもさること乍ら、
面接が大変大きなファクターであることを考
えておいていただきたい。服装、態度、言葉遣
い等を数人の人が四方八方から観察されます
から、服装は清楚な、出来れば制服、散髪、ヒ
ゲなども剃って行くことですね。偽善的態度、
エリート、青年らしさのない事はよくないと思
います。学生らしさ、青年らしさの天真爛漫さ
と落着いた態度もよいと思います。イエス、ノ

ーをはつきり答える、知らんことははつきり知
らんと云う方がよいと思います。無理にコジツ
ケの返答はよくないと思います。言葉ですが近
頃問われて答えるのに「……じゃないですか」
と云う青年が多いが、これなどは特に注意して
下さい。「……です」とか精々不安であつても
「……と思います」位にして下さい。

問われない事はあまりしゃべらぬことです。
「雄弁は銀、沈黙は金」と云うこともこの場合
当てはまります。自分を売り込もうと申しま
すか、物知りを知らせようと云つた気持は禁物で
す。相手は海千山千のシタタカ者ぞろいでは
なぬ。

筆記試験にアテ字誤字はその人の学力と云
うよりも人柄をアンダーバリューされますか
ら、止めて下さい。知らなかったら他の言葉を
使うか、又はカナ字で傍点をうって置いて下さ
い。近頃一流の新聞にもよく誤字を書いて居る
こと、それも無理をして難しい言葉を使いたさ
に間違つた字を書いて居ることがあります。荒
涼たる感が致します。

尚お言葉ですがオトーサン、オカーサン、ボ
ク、教師などと云わずに、チチ、ハハ、ワタク
シ、センセイ位の方がよいと思います。審査員
にオベツカ、反抗的駁論的態度、感情的態度等
は、何れも慎んで下さい。意見が異つて居た時
はなるべくおだやかに答えられた方がよいと

思います。

面接は堅くならず、パスするもよし、しな
いもよし、成敗はあまり気にしないで始終にこ
やかな態度がよいと思います。礼儀を考えるの
も一つのエチケツトと考えて下さい。オベツカ
ではありません。

その他種々申し上げたい事も沢山あります
が、希望者は又私の室に来て下さい。個人的に
御相談にあずかります。

以上前後まごまらぬことを申し上げますが、
これが何処までも私の私見でありますから、
どうぞ取捨選択していただきたいのです。何か
御役にも相立てば幸甚に存じます。

※当DVD収録のご講演録には、現在では不適切と思われる表現が
用いられている場合がございますが、講演時の時代背景等を尊重し、
当時のままといたしました。